

寺事新報

○京城特報 (二月二十七日) 韓 説  
著者 畠利子八五郎

此の十一日の事變に國王の萬國公使館に入られしより  
がる者は一概に其不可と嘆へ萬國公使館は朝鮮  
國中にわざと開く朝鮮政府が法律と以て如何ともする  
體成る所されば國内にありと雖も朝鮮國外も同様な  
如すれば今を御親選王は本國に住らざるものと云ふ  
も可なり。是も一層として危まるから手を貸し  
其だしうるに至る者もは更れ一事の旨否  
は眞人間の感として嘆きを發するに及ばれども見る  
見聞聞。常時士商の間に行はれ成る御親選王の如き  
其だしうるに至る者もは更れ一事の旨否

○京城特報

詩說員 卷之八

せたと云ふ数日前我内閣事は及用と以て請辭應に面會せん事を申込みしが書簡使は事務を擧の故と以て辭し代理者と我個事館に派遣しなり茲に於て該事は責任を以て當方の談判に回答し得るやと請辭せしに能はずと答ふ然らば該判は氣蓋なりとて之と中止し更に李書簡使に向て是非交渉事關に會せん事を請求したるには公連參照なれば是は又急用あらば兩公使館に來られたしと回答したり依て内閣事は更に音を寄せて私用ならば見る角公用にして事務局に圖すれば兩公使館に歸る說はすとて領りに請辭し居れりと云ふ

間違ひ是をと見分するに如何なる方法を以てせしもと  
に謂じ酒肴を出して賜應し何卒以後斯くの如き動か  
きにと懸々依頼する處ありしこ云ふ然るに一般は是  
に甘んぜず愈々御馳走の事を真顎と題せし時代として聞聞  
公使館に赴かしめたりとなり抑も當時の大半は政府  
の御用商人にして李氏、朝を流寓に移せしより今日に  
到るまで王室の冠婚葬祭より既に御用金の求めに應ずる所  
は改めて思ひもよらず政府は唯經年喪成の山澤に依  
頼するの外なし彼等にして苟も不平と申せば由々さう  
大事なれば政府も大にあらざる所なき能はざるべしと云  
所謂義兵、眞の義兵たらんとする  
地方の暴動其原因を究むれば新内閣の煽動に基きた  
ることは當時内外人の共に明白する處にして内閣固も已  
れ取て代れば暴徒も自から鎮定せんと謀略し解散令の  
如きも其便宜に任すの筋効を發し義兵と實質して解散  
せしめんとしたれども彼等は騎虎の勢容易に解散の  
模様なく八道益々不器ならとの状態繰りに到り京町を  
距る北方四里なる高畠地方に於ては諸處に貼紙して衆  
を集め京城に向びんとするの勢ばかり其主旨は所詮事  
王攘夷にて彼等は詔旨断罪令の如きは國內の四事の  
み苟も一國の君主にして外國公使館に移るが如きは事  
類る重大にして國體を辱しむものなり是れ皆政府の  
國を賣るものなれば宜しく彼等を貶し外人を國外に追  
ひ大君主陛下と大國には奉過べて云ふにあり傳て  
當政府當時の有様を觀察するに李光用、李完用、李純喜  
の徒は國王を挾んで躍起に運動し舊内閣を撲滅せん  
ふとを計ると共に一方には閔族に當り閔族は即ち伏臥  
して事派に當る漸次閔黨内閣の組織を盡し其後、徐  
繼英の徒も一派となしして勢力を張り軍人は現政府に信  
用を指かざれば今にも暴徒京城に侵入するふとあるも  
或は是と防ぐの道なかるべし新内閣を免して云ふべし  
時に政府は何れに顧りて之を策定せんとするか我輩の  
危む所なり

○米國製鐵事業の進歩

經言

○各所の梅園

本年は氣候に激變多く彼等國に



幻燈無言の見物

の見物

○米國製鐵事業の進歩  
スターは記して曰く北米合衆國海軍大臣ハーバードが九年前に於て報告したる所によれば最近五年間に米國に於ける開拓費は一週間に二割六点を費す。而して一方低落し其他の軍事費も同様に三割を低落せりと此の如き金額を示したるは明らかに米國軍事費の軍艦造上陸軍の開拓費と軍事的地位に立ちたる軍事費と開拓費とに於ては新しく開拓費と謂するものに外ならず軍事費の軍艦造に於ては開拓費と競争するにも尚ほより何が故に開拓費に於てはかかるや然り高騰傾向に於ても今今開拓費に於ては開拓費に於ける軍艦造の開拓費より是迄幾多の軍艦造に於て此等競争の手間け省しく無難じたれば以降大商船の製造に於ても益々急速して他國の開拓者と好し戦闘するに於けるかかとも對抗するに至るは決して疑ひ難かる。而して余輩は此等興奮家が今迄當局一番さんふと並むる所とされば合衆國はつまるところ海軍國なれどありと云ふる言ふ開拓より其端へ対抗を述せりと云ふ。

○神佐宮の陪朝  
朝鮮度支神佐宮中川大氏は日本より歸國を命ぜられたる中川一等御事は本月廿日着任同日より體にタインズボタルド御事務を開きわざ

○各所の梅園 本年は氣候に依る事多く、被服類に於けるものも、溫和の上日和三日間も續きしかど、以て、以高麗の如ばかり爲めに、各園の梅花比擬の時季、例年より二週間も後れし處にて去る八日第十七府院に與ひし人の名前は、被れば千葉の梅林其間に由りて、通達あり早速に、是なき點々枝を評するも、より遅きと雖六七分といふ。是上の見頃も、わり其間の所一月とするも、次の土曜(或る十四日)日曜(十五日)の兩日は、猶ほ往て開るべし。何事なれば、觀賞の爲めに、方舟を一箇して、乗じて、來りと揚げし。

南郊の梅林は常に早さも、本年は尋ねられたるよし。先づ大森の八景園を訪へし。梅樹は少なきも、東京園を御座に見下るし。富士、筑波、秀麗と前後に咲る景色、その園に来むべからず。夫より、通園に餘くべし。愛媛県成田市有名の梅園にして、先年以異くも天皇御下の行幸を記す。所下が御歩行道は、されし並木に采る枝葉は、今猶然と見頃もして、人の通むる所せり。同様は小鹿農政館となりて、白鳥新宿の風味、一寸小酌するに足れる。是れより、後歩して六郷の豪場と題し、川崎大師に參詣するは人云々の如手にて、同地駄門外に、一の梅園あり。其馳治二十一年の新設に係る年号は、浅ければ未だ想と成さる。